現代短歌分類辞典

別名現代短歌総索引

第二十四巻

津端　修編纂

津端　修編纂

現代短歌分類辞典

第二十四巻

現代短歌分類辞典

24

限定版1,000部の内

昭和四十五年十一月十五日発行　定価五〇〇円

著者発行
兼印刷者　津端　修

発行所　東京都中野区上高田二丁目九の一六
津端　修

振替　東京　六七三四一番
電話　三八七局八四二九番
郵便番号　一六四

目次（第二十四巻）

	歌数	頁数
あな②	一九五	一
あな―あつ	二	一七
あな―あはれ	六〇	〃
あな―あぶな	一	二三
あな―あやふ	三	二三
あな―あやふ―あやふ	一	〃
あな―あやふ―や	一	二四
あな―あらは	一	〃
あな―痛	一	〃
あな―いたいけ―や	一	〃
あな―う	一	〃
あな―うたて	二	二五
あな―うつけ	一	〃
あな―うま	二	〃
あな―うるさ	一	二六
あな―うるさ―うるさ	二	〃
あな―おぼつかな	二	〃
あな―おぼろ	一	〃
あな―おもしろ	四	二七
あな―おもな	一	〃
あな―おもの	一	〃
あな―かそか	六	二八
あな―かたじけな	六	〃
あな―かはゆ	五	二九
あな―かま	三	三〇
あな―かまの	一	〃
あな―かゆ―や	一	〃
あな―きよら―めづら	一	〃
あな―けうと	六	三一

あな—ここちよ	一	三二
あな—ここちよ—や	一	三三
あな—こころよ—や	一	〃
あな—こまか—や	一	〃
あな—さやけ	三	〃
あな—しづか	五	三五
あな—しどけな	一	三六
あな—せつな	一	〃
あな—つたな	一	〃
あな—つめた	二	三七
あな—つめた—よ	二	〃
あな—てれくさ	一	〃
あな—と（疾）	一	〃
あな—なめげ	一	三八
あな—にが	一	〃
あな—にく	一	〃
あな—にく—や	一	〃
あな—ねむた	一	三九
あな—ねもごろ—や	一	〃
あな—はかな	三	〃
あな—はろか	一	〃
あな—不覚	一	四〇
あな—不思議	二	〃
あな—朗ら	一	〃
あな—まづ（不味）	一	四一
あな—みにく	一	〃
あな—無惨	三	〃
あな—無情	一	〃
あな—珍ら	一	四二
あな—めでた	二	〃
あな—めでた—や	一	〃
あな—ものう（慵う）	一	〃
あな—や	四五	四三
あな—や—あな—や	二	四七

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

あな―れうじ　二　四七　案内せ―り　一　七四
あな―わりな　一　〃　案内僧　二　〃
あな―をさな　一　〃　穴鼬　二　七五
穴　二三九　四八　穴一　二　〃
あな（足）　一　六八　穴一し　一　〃
穴あき銭　一　〃　案内尼僧　一　〃
案内（あない）　一八　〃　案内人　一　七六
あない―さす　一　七〇　案内女　一　〃
案内さ―れ　一　〃　足裏（あなうら）　五六　〃
案内さ―れ―たる　一　七一　アナウンサー　七　八一
案内し―て　一　〃　アナウンサア　三　八二
案内し―のぼる　二　〃　アナウンス　四　〃
案内者　一六　〃　アナウンスする　二　〃
案内す　三　七三　あなかしこ　五九　八三
案内する　五　〃　あながち　五　八八
案内せ―む　二　七四　あながちなら―ぬ　一　〃
案内せ―られ―ぬ　一　〃　あながちに　一〇　八九

阿那賀の村　一　九〇
アナキズム　〃　〃
あな―きらら　一　〃
坑口　一　〃
穴倉　一七　二
あなぐらめき―ぬ　一　〃
あなぐら湯　二　〃
アナクレオン　一　〃
穴ごもり　六　〃
穴ごもりし―て　一　九三
穴ごもりする　一　〃
穴ごもる（終止形）　一　九四
同　（連体形）　三　〃
穴ごもる―ごと　一　〃
穴ごもる―如き　一　〃
あな―寒（さむ）　九　九五
穴師　三　〃

穴師川　一　九六
穴師の里　二　〃
あなし山　一　〃
彼方（あなた）　一七八　〃
あなた　四四　二一
あなたこなた　七　一一六
あな―たふと　二三　二一七
あな玉　一　二一九
貴方任せ　一　〃
あなづら―ず（侮らず）　一　〃
あなづらはしう　一　〃
侮らはしき　四　〃
侮らはしく　二　一二〇
あなづらはし―や　一　〃
あなづら―れ　三　〃
あなづら―れ―けり　一　一三
あなづら―れ―たり　一　〃

あなづらーれーたる　一　一三
穴釣り　一　一三
あなづり　二　〃
あなづりそめーて　一　〃
あなづりーて　五　〃
あなづる（終止形）　一　一三
同　（連体形）　二　〃
あなどらーず　一　〃
あなどらーる　一　一四
あなどらーるる　一　〃
あなどらーれーきーし　一　〃
あなどらーれーたりーし　一　〃
あなどらーれーつつ　二　〃
あなどらーれーながら　一　一三五
あなどらーれーにーき　一　〃
あなどらーれーゐるーらしき　一　〃
あなどり（名詞）　四　〃
あなどり（動詞）　二　一三五
あなどりがたく　一　一三六
あなどりがたし　三　〃
あなどり言　一　〃
あなどりーし　一　一三七
あなどりーつ　一　〃
あなどりーて　三　〃
あなどりーぬ　一　〃
あなどりやすき　一　〃
あなどる（終止形）　四　一三八
同　（連体形）　四　〃
アナトールフランス　二　一三九
あなどれーど　一　〃
あなどれーる　一　〃
あなに　二　〃
穴蜂　一　一三〇
穴八幡　一　〃

賀名生（あなふ）　二　一三〇
賀名生行宮阯　一　〃
賀名生の村　一　〃
穴掘り　一　一三二
穴掘り男　一　〃
穴蒔せーし　一　〃
穴窓　一　〃
穴室　三　〃
穴室口　一　〃
穴山　一　一三三
足なやみ　一　〃
アナルジイ　一　〃
穴井　三　〃
阿難　一　一三三
豈　五七　〃
兄　六〇一　一三八
兄妹　二　一八八

兄上　一三　一八八
兄弟（あにおと）　二　一八九
同（あにおとと）　三　一九〇
阿仁川　一　〃
兄川　一　〃
あにき　三　〃
兄君　四　一九一
兄子　一　〃
兄さびーて　一　一九二
兄島　一　〃
兄者人　二　〃
兄竹らし　一　〃
兄達　六　〃
兄中尉　二　一九三
兄弟子　二　〃
兄程　二　一九四
兄むすこ　一　〃

兄めきて　一　一九四　姉神　一　二三六
兄めく　二　〃　姉君　五　〃
アニュトカ　一　一九五　姉子　一　二三七
嫂（あによめ）　九　〃　姉さま　四　〃
兄ら夫婦　一　一九六　姉たち　三　〃
兄わらは　一　〃　姉玉姫　一　二三八
網内　一　〃　亜熱帯　一　〃
アヌンチヤタ　一　〃　姉の女郎　一　〃
姉　三九八　〃　姉ぶりする　一　〃
姉―の―子　九　二三九　姉娘　三　〃
姉―の―子ら　一　二三〇　アネモネ　三二　二三九
姉妹（あねいうもと）　二　〃　あねもね畑　一　二四二
同　（あねいもと）　七　二三一　姉ゆづり　一　〃
姉上　四五　〃　姉ら　二　〃
姉弟　三　二三五　姉らしく　一　〃
姉川　二　二三六　あ―の　七五　〃
姉顔　一　〃　あの　一〇三　二四九

安濃　一　二六九
あのかた　二　〃
あのく陀羅　一　〃
あのくたらみほとけたち　一　〃
あのく菩提　一　二六〇
あの子　三　〃
あの頃　一七　〃
足の音（あのと）　五一　二六二
足跡（あのと）　一　〃
あの時　四　〃
あの年（年齢）　一　二六七
同（時）　一　〃
足音し一つ　一　〃
あのね—あのね　一　二六八
安濃の津　一　〃
あの日　一　〃
あの人　一〇　〃

あのやうな　二　二六九
あのやうに　五　〃
あのよ（あの世）　八　二七〇
あの世どころ　一　二七一
あの夜　一　〃
安乗　三　〃
安乗浦曲　一　〃
安乗崎　一　二七二
安乗の海　一　〃
安乗の崎　二　〃
あの男　九　〃
あの女　一　二七三
安房　六五　〃
阿波　二五　二七九
あは　一　二八一
粟　七七　〃
淡々　二一　二八八

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

淡々し	五〇	二八九
淡々しかり	三	二九三
あはあはしかりーし	一	二九四
淡々しき	一〇	〃
淡々しく	三	二九五
淡々しけれ	五	〃
淡々しさ	五	二九六
淡々たり	一	〃
淡々と	一六四	二九六
淡々とーして	四〇	三一〇
合計	三、三一四首	

あな②【感動詞】

子を生みてあなやるせなき親牛の瞳親しく人をまもりつ　穂積　忠

冴えかへりし空のなごりのむなしくて夜の白雲あな慌し⑪　斎藤茂吉

さか木葉の照らふ葉交に見届けて花とし知ればあなおびただし④　谷　鼎

酒田なる吹きしく風に面むけて歩みてゐたりあな息づかし⑯　斎藤茂吉

杯をふくめばあやし手のふるふあなあやしくも灯の顫ふ杯　内山賢次

相模なる畑のくろ土にこもりたるアスパラガスよあな尊しよ⑮　斎藤茂吉

策もなく子が打ち返す高球にわがかまへゐてあな敗れたり②　高橋英子

雑然と鷺は群れつつおのがじしあなやるせなき姿なりけり㊂　古泉千樫

さびしさに萎えゐし心か君とあればあな生き生きともゆるとはする①　潮　みどり

さまよひしきのふの月夜おもほえてあな白々し遠渚原②　鹿児島寿蔵

五月雨に帰りも行かずあなにくし張文庫にも隠してましを⑨　与謝野晶子

あな

さむさきびしき冬のま夜なかをあなかなし崩御知らせて人走りすぐる　結城哀草果

さらさらと戸に来てあたる雪の音のあな何といふ寂しき音ぞ⑤　窪田空穂

暴風雨模様となりゆく空に星生れつあな寂かにし光の澄みたる②　大橋松平

しげりはにこもるこぬれのあけのみのあなうらぐはしつゆもゆららに④　会津八一

静御前あな浅ましや目を据ゑて跳ねつつ逃ぐる蚤を捕ふる　窪田空穂

しののめの空のさ青に浮み出であな真白くも雪に光る山⑤　窪田空穂

しみじみと我身をめぐり吹く風のあなすがしもよ青葉の香り㊀　青山幸次郎

清水君見習士官の服を着てあな稚々し吾子にかも似る⑥　半田良平

霜にあけて遠野の彼方に立つ霽のあなすがすがし見れば香に顕つ　矢代東村

常念のいただきの岩脚やらば踏みもしぬべしあな槍が岳⑤　窪田空穂

白々とわが子の骨の見えて来ぬあな朝の日のあきらなるかな⑥　尾上柴舟

しら玉のをさなごころの揺りごころあなたづたづし母に寄りつる　北原白秋

死をねがふこころひそかに春をまつあな生きむとすいつはりごころよ①　田波御白

杉の樹の肌に寄ればあな悲しくれなゐの油滲み出(いで)るかなや①　斎藤茂吉

過ぎ行ける生命をおもふ高谷山にあな傾ける片割の月④　中村憲吉

少しばかりの洋書おくらむとせしかどもあなわづらはし誰が助けに来(こ)ね⑮　斎藤茂吉

砂の上に離れ峙ちあなさびし苔より外に石はもたざり⑫　尾上柴舟

水死せる少年を抱く母の膝あな薄黄なるまろき踵(かかと)を②　川浪磐根

水辺をめぐり来りぬあな清(すが)しここの木立に啄木鳥住むも⑧　斎藤茂吉

寸暇なくてあな愉しよと子は言ひつつ朝を足疾(あしど)に階段降りゆく③　栗原潔子

背の君に呼ばれて友の紅らめりあなやさしくもよびたまひけり　山野ます子

袖に来て白く飛びちる雪つぶてあなさびし子らが雪投げの玉　北原白秋

大火の火消なむとしつつあな寂しほのほの名残り空を染めたり③　杉浦翠子

あな

あな

たかだかと松の太樹の立てらくに雪ふりつみてあな厳しよ⑮　斎藤茂吉

篁のそよぐ遠方辺の丘の上にあなさやかなる冬の霓立つ⑦　尾山篤二郎

滝があぐる水沫の霧を陽光透りあなまさやけし彩に耀りつつ　朝吹磯子

戦ゆ生きて帰れりあな羞し言葉少なにわれは居りつつ②　宮柊二

正しきを正しとは言ひ切り得ぬ人のあなあはれにも生きて並べる①　谷鼎

立ち帰りわが家にありて見かへせばあな玲瓏と澄みたりや世界⑥　窪田空穂

手力の、あなさびしさよ、人よべど、人はより来ず、恋しかりけり④　釈迢空

たまきはる命をかけし恋にさへあな無残にも破れけらずや⑫　吉井勇

弾丸なかに身を伏せてあな胴震ふ水欲しくまた尿をもよほす②　山本友一

賜はりし牛尾菜のいたくいためれば青きを拾ふあな惜しあな惜し　土屋文明

たもち来し人の操のあま小舟あなあま小舟港入りする⑪　太田水穂

樽前のなだりの末を黄にぼかしあな女郎花咲き続きたる⑭　尾上柴舟

淡水の真澄みのみどり底しづきあな親しもよ細かき波の　土屋文明

ちひさなる襖の汚染もあなかなし母がおもわとなりぞしにける③　尾上柴舟

栂樅の密林すぎてあな愛し四照花の実共にし食へば⑬　斎藤茂吉

疲れたる頭をひたす朝の水あな沁み来もと眼をつぶるかな②　島木赤彦

つぎて咲く紅さうびけしの花あなわづらはし眼に見ゆるもの①　冨岡冬野

つくづくと思ふに堪へずあな明日は凧か与へむ洋劔かよけむ①　和田山蘭

津久井谿のみなみ傾りをくだりきてあなうひうひし冬の和羊歯②　鹿児島寿蔵

土のうへの生けるものらの潜むべくあな慌し秋の夜の雨①　斎藤茂吉

円ら眼の童子かまどの前に居りあなひもじもよ焔の躍り②　北原白秋

冷くも熱きものともなし給へあなこの人もかく云ふものか⑬　與謝野晶子

露霜は起きいでぬ間にとけそめてあなさやさやし濡るる庭芝⑤　半田良平

鶴岡の霜の朝けに打つ神鼓あな鞳鞳と肝にひびかふ③　吉野秀雄

あな

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com